

2010年12月9日

ご参考資料

楽読
(ラクヨミ)

Vol.326

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

政策金利の推移からみえる各国景気の強弱 ～今後も注目される資源国や新興国の通貨

今年の主要国の金融政策を振り返ってみると、追加の金融緩和を行なった日本および米国に加え、ユーロ圏では、景気を下支えするために金融市場に潤沢な資金供給を続けている一方で、資源国や新興国などでは景気の強さを反映し、政策金利や預金準備率などを引き上げる国が多くみられました。

今後についても、日本および米国、ユーロ圏の中央銀行が、金融緩和を継続する姿勢を示していますが、資源国や、新興国などでは、国内景気の拡大やインフレ懸念に対応するため、金融引き締めの可能性が高まっていることから、金融政策の二極化はますます進展していくと考えられます。こうしたことは、日本および米国、ユーロ圏と資源国や新興国などの間の金利差を大幅に拡大させることにつながり、ひいては、金利差に着目したキャリー取引などを通じて、資源国や新興国の通貨を上昇させる要因のひとつになるとみられます。

新興国においては、インフレに対応した利上げが、海外からの資金流入を加速させ、物価上昇や資産価格の高騰に結びつくリスクが警戒されています。また、一部の国では、利上げに対し慎重な姿勢を維持している国もあることから、各国中央銀行の政策動向と、それを受けた投資資金の動きに注意が必要となるかもしれません。

しかしながら、資源国や新興国の経済成長見通しは良好な国が多いことや、持続的な経済成長を維持するために、これらの国々における利上げの時期やその幅などは適切に判断されると考えられることから、金利差が拡大するといった側面では、資源国や新興国などの通貨は引き続き選好されやすいといえそうです。

■主要各国の政策金利の推移(2010年1月～2010年12月※) ※2010年12月8日まで (単位:%)

	日本	米国	ユーロ圏	スウェーデン	ノルウェー	ハンガリー	ロシア	カナダ
1月	0.10	0-0.25	1.00	0.25	1.75	6.00	8.75	0.25
2月	0.10	0-0.25	1.00	0.25	1.75	5.75	8.50	0.25
3月	0.10	0-0.25	1.00	0.25	1.75	5.50	8.25	0.25
4月	0.10	0-0.25	1.00	0.25	1.75	5.25	8.00	0.25
5月	0.10	0-0.25	1.00	0.25	2.00	5.25	8.00	0.25
6月	0.10	0-0.25	1.00	0.25	2.00	5.25	7.75	0.50
7月	0.10	0-0.25	1.00	0.50	2.00	5.25	7.75	0.75
8月	0.10	0-0.25	1.00	0.50	2.00	5.25	7.75	0.75
9月	0.10	0-0.25	1.00	0.75	2.00	5.25	7.75	1.00
10月	0-0.10	0-0.25	1.00	1.00	2.00	5.25	7.75	1.00
11月	0-0.10	0-0.25	1.00	1.00	2.00	5.50	7.75	1.00
12月	0-0.10	0-0.25	1.00	1.00	2.00	5.50	7.75	1.00
	オーストラリア	ニュージーランド	中国	インド	インドネシア	タイ	ブラジル	南アフリカ
1月	3.75	2.50	5.31	4.75	6.50	1.25	8.75	7.00
2月	3.75	2.50	5.31	4.75	6.50	1.25	8.75	7.00
3月	4.00	2.50	5.31	5.00	6.50	1.25	8.75	6.50
4月	4.25	2.50	5.31	5.25	6.50	1.25	9.50	6.50
5月	4.50	2.50	5.31	5.25	6.50	1.25	9.50	6.50
6月	4.50	2.75	5.31	5.25	6.50	1.25	10.25	6.50
7月	4.50	3.00	5.31	5.75	6.50	1.50	10.75	6.50
8月	4.50	3.00	5.31	5.75	6.50	1.75	10.75	6.50
9月	4.50	3.00	5.31	6.00	6.50	1.75	10.75	6.00
10月	4.50	3.00	5.56	6.00	6.50	1.75	10.75	6.00
11月	4.75	3.00	5.56	6.25	6.50	1.75	10.75	5.50
12月	4.75	3.00	5.56	6.25	6.50	2.00	10.75	5.50

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

利上げ(前月末比) 利下げ(前月末比)
(※レンジの上げ下げも含む)

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。